



未来志向の日韓関係をけん引する“東アジアの宝島”

歴史的な“対馬”の役割を再認識し、未来へ に向けた知恵と投資の受け皿に



天然記念物ツシヤママネコ

1 対馬野生生物保護センター



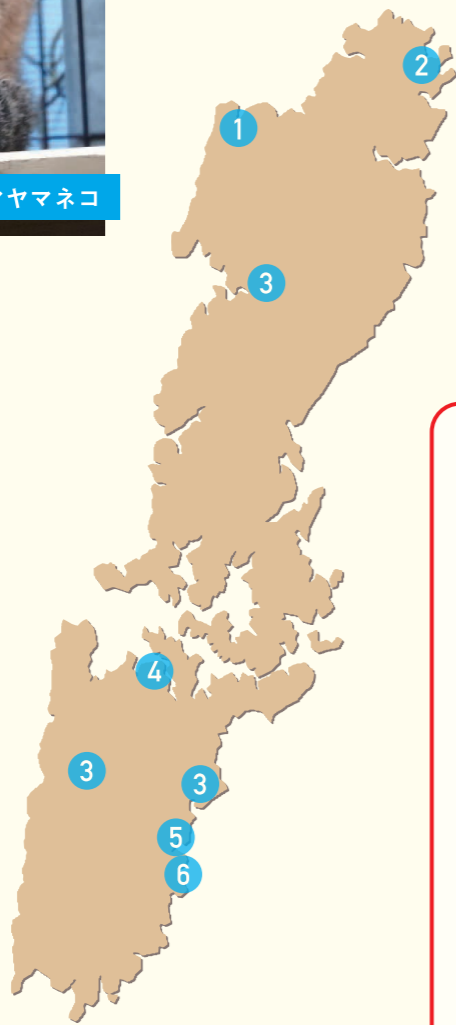
A マグロの解体・加工



B しいたけ栽培



C 自然薯の収穫



2 大型ホテルの新設

東横INNが2017.3に厳原、続いて2019.9に比田勝にオープン。比田勝は8階建て計243室。オーシャンビューが楽しめる広めの客室や最上階に配した朝食会場など、同社には珍しいリゾートタイプ仕様。敷地内で対州馬も飼育している。



4 古代山城 金田城 (防人の島・最前線の防衛拠点)

西暦667年に築かれた朝鮮式山城。TV番組で「絶対行きたくない最強の城」に選ばれるなど注目を集める金田城の魅力を、さらに発信する取組を推進しています。



5 対馬博物館の整備

2020年度完成予定。大陸との交流の歴史等を展示。対馬を訪れる国内外の観光客にとっての新たな目玉に。



韓国人の観光客急減への対応

対馬の大自然に魅力を感じ、サイクリングやトレッキングを楽しむ韓国人が多く来島していました。

【対馬～釜山航路の入国者数】

H21:4万人 ⇒ H30:41万人

しかし、不安定な国際状況の影響により、R元年7月以降、韓国人観光客が急激に減少したため、旅行会社への新たな旅行商品造成の働きかけや、宿泊割引キャンペーンを実施するなど、観光客の誘致対策に全力で取り組んでいます。



韓国人観光客で賑わう比田勝港ターミナル

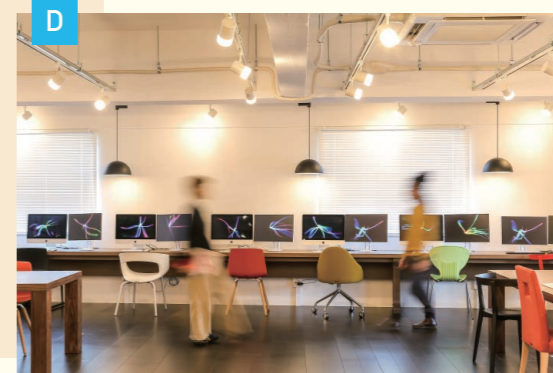
6 “しま”のテクノロジー対応が進行中

D IT人材養成スクールの進出

2018年12月、対馬市厳原町にデジタルハリウッドSTUDIO対馬がオープン。対馬市や県振興局等と連携協定を締結し、UIターン者の促進や起業・創業支援等に取り組んでいます。

E 明治大学等と自動運転の共同研究

2019年8月、ハンドルのない自動運転バスに一般市民を乗せ公道を走る全国初の実証実験を実施。将来的な対馬市の交通弱者対策や観光利用を念頭に取組を進めています。



3 有人国境離島法による離島活性化

A 対馬産マグロの解体／加工施設導入

マグロを消費者ニーズにあったサイズで販売するための解体・加工所が整備されています。

B C 建設業者の異業種参入による雇用創出

しいたけ栽培に参入し、通年栽培できる施設整備を行い、高品質な産品を安定供給することで全国にブランド展開しています。また自然薯栽培にも参入。自然薯は単収が高く、農作業が被らず、収穫が11～2月と長期にわたるなどのメリットがあります。

+ プラスONE

+ 観光客の誘致・受入体制の強化

韓国との交流を図りながら、歴史や地域資源を活用して、対馬の観光をステップアップし、国内外からの新たな誘客につなげる必要がある。

期待される 相乗効果 連携

- 観光、水産物輸出など日本と韓国をつなぐ要衝として、プレゼンスが向上
- “しま”であることを活かした、テクノロジー開発・普及に資する実証実験エリアとして、我が国のSOCIETY5.0の実現に貢献